

明石海峡横断航路の現状

2022.8.31 事務局長 池田良穂

かつては播淡連絡汽船や明石国道フェリー等の船が運航されていた明石海峡横断航路は、明石海峡大橋の開通で厳しい経営に晒され、今ではジェノバラインだけが高速旅客船を使ったサービスを行っています。親会社の援助もあって運航を続けていますが、使用船の代替もままならず、苦肉の策として船は公的に建造して、運航を民間会社が行うという離島航路向けの上下分離方式で「まりん・あわじ」の新造が実現しました。この方式が実現したのは、明石海峡大橋が高速道路橋なので、小型のバイクの通行ができないため、船による輸送が必要とされるということで、「まりん・あわじ」は小型バイクを積載できるカーフェリー仕様で建造されています。

こうして、船は淡路市が所有し、ジェノバが運航するという体制ができましたが、公的に所有の船は「まりん・あわじ」の1隻だけで、ジェノバの所有する「まりんふらわあ2」、「ジェノバI」、「レットスター」の3隻は自主運航という変則的な運航形態がとられています。

「まりん・あわじ」の就航以来、毎年実施される運航評価の審議会の委員長を務めており、今年も8月末に審議会が開催されました。

コロナ禍の影響で輸送実績は減少していますが、2019年の74万人に比べて、2021年は62万人と10万人ほど減っていますが、2020年の55万人に比べるとだいぶ回復してきたといえます。バイクは1.2万台、自転車を2.1万台運んでいます。便数を20%ほど減らして運航コストを削減していますが、それでも赤字が続いているとのこと。苦境の中でもがんばっていることが確認できました。

明石海峡大橋の下を通り、瀬戸内海の幹線航路と交差する航海で、いずれの船も外に出られるので、爽快な海風を浴びながらのミニクルーズが楽しめます。ぜひ、明石海峡を渡るミニクルーズをお楽しみください。



「まりん・あわじ」は、ツネイシクラフト&ファシリティーズ建造のアルミ合金製の双胴旅客船で、118総トン、24ノット。旅客定員は180名で、2輪のバイクと自転車を28台積載できます。岩屋にある道の駅あわじからの撮影です。



「まりんふらわあ 2」が明石海峡大橋をくぐりぬけて岩屋港を目指して疾走しています。



「ジェノバ I」は 19 総トンの小型高速船です。

岩屋の「道の駅あわじ」からは明石海峡を通過する船の姿が楽しめます。この日は、審議会の前に2時間ほど、審議会の後に40分ほど立ち寄ってシップウォッチングを楽しみました。



「おれんじおおさか」は、たまたま「おれんじえひめ」のドック入りで昼間に大阪から東予に回航されていました。年に1週間だけの貴重なショットです。



「咸臨丸」が淡路海峡クルーズに就航していました。



RORO 貨物船「第6はる丸」



RORO 貨物船「はっこうひなた」



日韓を結ぶ RORO 貨物船「パンスター・ジェニー」



RORO 貨物船「豊福丸」